

# 第3回行政評価委員会(7/25)における各施策に対する回答一覧

資料8

【事前質問:36件 第1回委員会で出た質問:4件】  
令和6年7月5日時点

NO	取組番号・取組名	質問	回答	担当部署
① 7/25 ヒアリング	7 若者が集うまち	移住相談の内容と、それをふまえた施策への展開についてお考えを聞かせてください。	令和5年度は220件の移住相談があり、相談内容は補助金の問い合わせ、さとエリアでの暮らしや就農、空き家などの物件などについて受けております。相談内容に応じて、関係機関・住まいるメンバー（移住経験者）と連携し、検討段階ごとの支援を行っています。令和5年度からは、実際に三田を見ていただいたり地元の人の話を聞ける機会をつくるため、オーダーメイドで市内を紹介するツアーを新設、他にも住み替え支援補助や結婚新生活支援事業など新たな補助金メニューを増やすなど、効果的に移住につなげていけるよう取り組みを進めています。	総合政策部
② 7/25 ヒアリング	7 若者が集うまち	学生まちづくり関連事業について、活動補助金の上限が5万円であったと記憶しています（もっと高額であればすみません）。もう少し金額設定を上げることはできないでしょうか。他の自治体の学生助成金は10万円、20万円と高額なところが多いです。	平成29年度から3年間は期限付き補助として、上限10万円で団体への補助を行い、令和2年度から3年間は「こみんか学生拠点」への補助を行うことで学生のまちづくり事業を支援してきました。令和5年度から補助を見直し、個人の活動も可能として高校生から大学生まで多様な活動を支援するよう幅を広げるため、上限額を2万5千円に変更しています。なお、令和5年度実績で上限まで利用した団体は4団体中1団体のみという状況でした。補助額の設定については、これまでの利用実績や他の自治体での支援状況等も参考にしながら、必要に応じ見直し等も行っていきます。	総合政策部
③ 7/25 ヒアリング	7 若者が集うまち	スモカモスコミュニティ登録方法の変更内容と、減少に転じた理由を具体的に教えてください。R6年度から始まるコーディネーター認定制度の準備状況や想定を教えてください。	スモカモスコミュニティについて、当初は実施年度ごとに参加者と各事業者のグループを作成して運営をしておりましたが、全てを一括で管理できるように別のツールで運用することとなりました。移行作業の際に過去参加者の一部は新たな登録を希望されなかったため、結果的に人数が減少することになってしまいました。コーディネーターについては、10月頃に育成プログラムを実施します。受講者はスモカモス卒業生の学生や社会人6~7人程度を想定し、修了者登録をする予定です。	総合政策部
④ 7/25 ヒアリング (第1回委員会で出された質問)	7 若者が集うまち	若者に対し、駅前等の活性化に向け、どのような店を誘致することが集客につながるか等の気軽なアンケートの実施も必要かと思いますが、市の考えをお伺いします。	これまでは、学生のまちづくり事業が始まった平成28年度や、コロナ渦での学生生活の把握など、必要に応じてアンケートを実施してきましたが、アンケートの回収率が低いという課題もありました。今後については、イベントなど学生が集まる機会やSNSを活用し、気軽に答えやすいアンケート内容にするなど委員のご指摘も踏まえ、若者の意見をお聴きしていきたいと考えます。	総合政策部

# ヒアリング対象外施策施策に対する回答一覧(29件)

資料8

令和6年7月5日時点

NO	取組番号・取組名	質問	回答	担当部署
① ヒアリング 対象外施策	1 人権・共生のまちづくり	人権研修会はオンラインも併用して開催しているか教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回開催の市民向け人権啓発講座は、対面のみ実施しています。</li> <li>・平和を考える市民のつどいは、録画を後日HPで配信しています。</li> <li>・人権と共生社会を考える市民のつどいは、R4は対面+オンライン、R5は対面のみ、R6は対面+録画配信を検討しています。</li> <li>・当日のオンライン併用は、機器トラブル発生時の対応が難しいため、比較的风险の低い録画配信を検討しています。</li> </ul>	健康福祉部
② ヒアリング 対象外施策	1 人権・共生のまちづくり	男女共同参画の推進の予算額は約720万円と記載されていますが、具体的にどのようなことに使用されているのでしょうか。(シングルマザーのためのパソコン教室、「育休」に関するパネルディスカッション以外で)	<p>人権・男女共同参画に関する啓発の総合窓口として「人権・男女共同参画プラザ」の運営を委託料として5,373,868円で「一般社団法人アスパラガス」へ委託しています。委託料の主な内訳は人件費、講座開催費になります。講座の例としては、男女共同参画週間記念事業として講師による講演や男性のためのクッキング、起業支援のイベント等になります。</p> <p>委託料以外につきましては、「三田市男女共同参画推進委員会」開催費、女性のための相談にかかる経費になります。</p>	健康福祉部
③ ヒアリング 対象外施策	2 地域で支えるまちづくり	まちづくり協議会における地域計画策定があまり進まない理由を教えてください。	<p><u>取組②(協働推進課)</u> 地域計画策定について市は、まちづくり協議会に対し自主的な取り組みとして提案しており、まちづくり協議会の熟度やペースにあわせた支援を行い、あえて策定期限を設けていないためです。</p>	市民生活部
④ ヒアリング 対象外施策	2 地域で支えるまちづくり	「地域活動」とはどのような活動でしょうか。	<p><u>取組②(協働推進課)</u> 自治会活動をはじめ、地域住民自ら居住している地域の福祉向上や環境維持・改善、まちづくりなどのテーマごとに行っている活動を指します。</p>	市民生活部
⑤ ヒアリング 対象外施策	2 地域で支えるまちづくり	区長・自治会長の女性比率を上げるために具体的にどのような取組を行ってきたか。例を教えてください。	<p><u>指標2(協働推進課)</u> 「協働のまちづくり推進委員会(附属機関)」に対し現状を報告し、女性や若者が参加した持続可能な地域コミュニティのあり方について検討をお願いしています。</p>	市民生活部
⑥ ヒアリング 対象外施策	2 地域で支えるまちづくり	財政的な支援以外で、どのような支援を行ったのですか。	<p><u>取組②(協働推進課)</u> 地域担当課長がまちづくり協議会の活動状況を把握し、市や他団体とつなぐなどの支援や学識者をアドバイザーとして派遣し、地域計画策定の支援を行っています。</p> <p><u>取組③(健康福祉部)</u> 令和5年度から「重層的支援体制整備事業」に着手し、属性や世代を問わない地域づくり支援を行っています。住民同士の顔の見える関係が築けるよう「地域福祉支援員」を市内6か所(市民センター内等)に配置し、地域の活性化に向けた取組を支援しています。</p>	市民生活部 健康福祉部

⑦ ヒアリング 対象外施策	3 健康づくり	特定健診受診率があまり向上しておらず、目標達成が難しいように見えるが、改善方策は講じているか。40歳代で健康づくりに取り組んでいる人の割合が減少傾向にあるが、方向性が「↑」となっており、補足説明をいただきたい。	特定健診は、大規模会場を設けて実施する集団健診や個々に医療機関で受診する個別健診など様々な受診機会を設けています。R元年度までは県平均を上回る受診率でしたが、新型コロナ感染拡大の影響により大きく受診率は落ち込み、その後は徐々に回復しつつある状況です。集団健診では電話予約のほか、webでの予約も受け付けており、予約状況に応じた柔軟な運用や受診者の動向やニーズを踏まえ実施日程の工夫を図るなど、受診しやすい環境づくりに取り組んでいます。 方向性が「↑」となっていることについては、R5数値が目標水準に達していないため、上げていくという趣旨で記載しています。	健康福祉部
⑧ ヒアリング 対象外施策	3 健康づくり	「特定健康診断率」はあまり向上していないように見受けられますが、広報活動はどのように行われているのでしょうか。	受診率の向上に向けては、上記No.7に示した受診しやすい環境づくりの他、毎年、対象者宛に通知を送付すると共に、広報誌やホームページを活用し広報に努めています。 また、秋頃には未受診者に対して、ハガキで受診勧奨を行っており、通知にあたっては過去の受診歴などに応じ表現を変え、受診行動に繋がるよう工夫を行いました。	健康福祉部
⑨ ヒアリング 対象外施策	3 健康づくり	40歳代の健康づくりについて、企業との連携や協力などはどのようになっているのでしょうか。	企業の協力・協働による取り組みとしては、40歳以上を対象とした特定健診出張会場でのベジチェックといった健康に関する取り組み、食育をテーマとした地域イベントへの出展などの取り組みを行っているところですが、今後も公と民、互いの強みを生かした取り組みの充実を図ってまいります。	健康福祉部
⑩ ヒアリング 対象外施策	4 乳幼児期の育ち	離職率が増加しているが、新たな保育士・幼稚園教諭の確保は円滑に行われているか。先生方も、ライフステージによって離職することもあり、復職することもあるので、復職の状況も教えて欲しい。	市では毎年10月1日を基準とし、市内就学前施設を対象に保育士等の退職・採用に関するアンケート調査を実施しています。本調査では復職の状況についての調査は行っておりませんが、入職率(採用者数/職員数)は、離職率とほぼ同率で推移しており、保育士・幼稚園教諭の確保が行えている状況が伺えます。	子ども・未来部
⑪ ヒアリング 対象外施策	5 地域ぐるみの子育て	・こうみん未来塾探究コースの目標R8は延べ数か。 ・修了者数は各年度の数と思われるが、減少の理由はなにか。 ・放課後子ども教室の開催日数は、頭打ちのように見えるが、改善策はあるか。	・こうみん未来塾探究コースの目標値はR8年度単年度でのコース修了者の実数です。 ・初年度(R4)において一定数の受講があり、R5年度は「3」から「5」へ探究コースの数を増やしたにも関わらず参加者が減少しました。理由としてはニーズとテーマの不一致が考えられます。今後は、子どもたちの興味・関心に合わせたテーマ設定や新たなトレンドの発掘、参加しやすい連続日程の調整などについて検討していきます。 ・放課後子ども教室については、コロナ前に1,300~1,400日の開催実績がありましたが、コロナ禍で減少し、R4年度から回復してきたところです。子ども教室は地域の方々が地域の需要やスタッフのマンパワーに合わせて年間計画を立てながら開催しています。地域の需要や負担バランスを見ながら、必要に応じてサポートを検討していきます。	子ども・未来部
⑫ ヒアリング 対象外施策	5 地域ぐるみの子育て	学校支援ボランティアの活動日数が大幅に増えていますが、どのような取組が効果を発揮したとお考えでしょうか。	コロナ前は3,400~3,800日の活動実績があり、R2年度からコロナ禍の影響で活動日数は減少しましたが、R4年度から回復し、「授業準備・補助」の分野などで活動日数が増加しています。また、登録者数も増加傾向にあります。 ボランティアに興味がある市民の方にも参加いただける研修会の開催や、広報誌やラジオによる啓発、ボランティア募集のチラシを市民センター等市内各施設へ配架するなどに努めています。	子ども・未来部
⑬ ヒアリング 対象外施策	8 いつまでも学び、活躍できるまちづくり	図書館のサービス向上は記載されていますが、「知の拠点」としての機能充実の内容がわからないので、教えてください。	<u>取組①(文化スポーツ課)</u> 「知の拠点」とは、市民の学びの拠点と考えております。機能充実については、今回、自動貸出機等の導入による図書館のサービス向上や予約した本をセルフで受け取れるコーナーの設置などにより利用者の利便性向上を図りました。	市民生活部

⑭ ヒアリング 対象外施策	9 地域医療の安心	「断らない救急」の持続可能性について教えてください。	「断らない救急」を将来に亘って持続するためには継続的・安定的な医師の確保が不可欠となりますが、新専門医制度や医師の働き方改革により現市民病院の医療機能のままでは若手医師を始めとする医師の確保が難しくなると考えています。こうした課題に適切に対応しなければ「断らない救急」の持続は困難になると想定されます。	総合政策部
⑮ ヒアリング 対象外施策	9 地域医療の安心	休日応急診療センター、救急搬送受入件数ともに増加しているようですが、当該事実はどのように評価すればよいのでしょうか。(これまで需要はあったが医療機関側のキャパシティー等の不足で受け入れることができなかったものをキャパシティー等の改善で受け入れることができるようになった、ということなのでしょうか)	<p>&lt;健康福祉部&gt; 休日応急診療センターにおいては、新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザなど感染症の流行により、受診患者が増加したものと考えており、受け入れにあたっては、受診を断ることなく対応しています。</p> <p>&lt;市民病院&gt; 令和5年度の救急搬送受入件数は過去最高となるとともに、救急患者数についても昨年度より400人以上増加となり、地域の安心をもたらす良質で高度な医療サービスを提供することが出来たと考えています。</p>	市民病院事務局 健康福祉部
⑯ ヒアリング 対象外施策	9 地域医療の安心	三田・北神地域の急性期医療を確保するため、三田市民病院と済生会兵庫県病院の再編統合による新病院の整備を進める、とのことですが、この再編統合がどのように急性期医療の確保につながるのかが今一つ理解できないので説明してください。また、2つの病院を一つの病院に統合することによって、地理的に通院が困難になる患者はどのくらいいるのか、そのような患者に対してはどのようにフォローされるのか、教えてください。	急性期医療を将来に亘って確保するためには、医療資源を集約するとともに安定的・継続的に若手医師を確保する必要がありますが、新専門医制度の導入により、若手医師を安定的・継続的に確保するためには豊富な症例数があり、多くの指導医が在籍しており、充実した医療機能が備わっていることが不可欠となります。こうした課題への対応として新統合病院を整備することにより、三田市民病院と済生会兵庫県病院に分散している医療資源を集約化し両病院の抱える診療圏の患者を受け入れることによって症例数を増やし、指導体制や充実した医療機能を整えることによって急性期医療を確保することが可能となると考えています。 また、交通アクセスについては、現在、将来の需要予測やアクセス手法の検討を行っており、今後、公共交通事業者との協議等を踏まえながら具体的な対応を検討していくこととしています。	総合政策部
⑰ ヒアリング 対象外施策	10 生活の安全安心・非常時への備え	消費生活に関する講座の開催形態が、対象者の特性に対応したものであるか教えてください。避難行動～支援計画の作成は緊急の課題であるため、進捗が少し鈍い理由を教えてください。	市内6か所にある地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、新規認知症カフェの立ち上げ支援(立ち上げ相談、広報支援、専門職の派遣などの人的支援など)や既存カフェに対する継続支援を行います。	危機管理部 市民生活部
⑱ ヒアリング 対象外施策	10 生活の安全安心・非常時への備え	刑法犯罪発生件数が増加しているようですが、どのような犯罪が増えているのでしょうか。(増加している犯罪の種類の種類があれば教えてください)	件数は県下全域で増加傾向にあります。三田市は「特殊詐欺」及び「自転車盗」・「器物損壊等」が増えていることが要因となっています。	危機管理部
⑲ ヒアリング 対象外施策	12 高齢者の安心	認知症カフェ事業に対して、どのような支援体制を考えているのですか。	市内6か所にある地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、新規認知症カフェの立ち上げ支援(立ち上げ相談、広報支援、専門職の派遣などの人的支援など)や既存カフェに対する継続支援を行います。	健康福祉部
⑳ ヒアリング 対象外施策	13 障害のある人の安心	「障害のある人への対応や理解」は具体的にどのような指標なのか教えてください。	第5次三田市総合計画や第6次三田市障害者福祉基本計画において、「障害のある人への対応や理解が足りている」と答える障害のある人の割合を数値目標として設定しています。合理的配慮の提供など障害のある人への理解促進等の取組を進め、アンケート調査の結果を70%に目標設定しています。	健康福祉部

⑳ ヒアリング 対象外施策	14 心つながる暮らしの安心	自殺死亡率は、本施策の措置だけでは減少させることが難しいと思われるが、他にどのような要素があるか教えてください。	自殺死亡率の減少には、社会の側にある「生きることの阻害要因」を低減させる必要があります。社会の変化に伴う自殺の「危機経路」の要因を分析し、「生きることの促進要因」（自己肯定感や危機回避能力等）を増加させる取組みを総合的に検討することが重要と考えます。	健康福祉部
㉑ ヒアリング 対象外施策	15 商工業の振興	社会経済が変化して企業活動が大きく影響を受けたとしたら、支援の内容も対応しないといけませんが、その内容を教えてください。	これまで、コロナ禍や物価高騰の影響下においては、小規模事業者の経営支援のため助成金や、中小企業者への物価高騰対策として補助金の支給を行っております。あわせて、地域経済活性化のため、市内店舗や商業施設で使用できるプレミアム付きの商品券・お買い物券事業を実施して消費喚起につなげるなど、支援を実施しております。 その他、企業等の社会経済の変化に対応した持続可能な事業基盤づくりにつながるよう、デジタル化や、新しいビジネスアイデアの育成など多様な経営支援に取り組むを進めてまいります。	産業振興部
㉒ ヒアリング 対象外施策	15 商工業の振興	製造品出荷額が増加しないのは、三田市の産業構造の特性によるものだと思いますが、今後製造業などの誘致や立地促進などは市の方針としてお考えでしょうか。	令和元年度から令和2年度にかけては、コロナ禍により製造品出荷額は減少しておりますが、今後、第5次三田市総合計画に記載のとおり、主要な高速道路の結節点等の本市の特性を活かし、モノづくり等の集積拠点整備の検討を進めてまいります。	産業振興部
㉓ ヒアリング 対象外施策	16 農業の振興	獣害対策は、新たな担い手や新たな農業を持続させるためにも重要であるが、進捗が遅れているように見えるので、対応を教えてください。学校給食を含めた市内消費の動向を教えてください。	本市の獣害対策は、有害鳥獣の捕獲活動と農地への侵入を防ぐ柵の設置など、複合的な対策を行っており、集落全体を囲う柵の設置については、要望のあった集落への柵の設置は完了しているものの、地域の合意形成に至らない未設置地域については、今後も引き続き地域の意向を確認しながら、円滑な協議に向けて支援してまいります。 また、市が捕獲したイノシシ、シカについては、三田市聖苑で焼却処分しており、学校給食等には提供しておりません。なお、民間によるジビエ料理等への消費動向については、市では把握しておりません。	産業振興部
㉔ ヒアリング 対象外施策	16 農業の振興	地場産野菜が使用されにくい理由などがあれば教えてください。	市内農産物の多くは、兵庫六甲農業協同組合のパスカルさんだを介して流通しており、平成30年度と令和5年度の販売金額と利用者数を見ると、販売金額はこの5年間で約35%増、来場者数は約21%増となっており、市内農産物の市内消費動向は高まっていると考えられます。 また、学校給食においては、天候の影響や生産量等の事情から、必要な時期に必要な量や規格等を確実に確保することが難しいことから、現在の使用している49品目の野菜のうち、令和5年度の地場産野菜の使用は10品目で、使用率が20.4%にとどまっています。	産業振興部
㉕ ヒアリング 対象外施策	16 農業の振興	高齢化が進んでいく中で、農業のあり方も変わってきていると思います。今年に入り、農福連携の新ビジョンができましたが、三田市こそ農福連携の推進が必要な自治体であると考えています。この点、お考えをお聞かせください。	今後、本市でも急速な高齢化や人口減少に伴い、多様な人々の活躍を通じた地域農業の振興等が重要と考えており、国や県の制度等を活用しながら、農業者や福祉事業所、市の福祉担当部局等と連携し、まずは農業者と福祉事業所とのコミュニケーションなどの課題解消から取り組んでまいります。農業という働く場と福祉が持つ人材を有効活用し、お互いの課題解決と利益につながるWin-Winの関係構築を目指してまいります。	産業振興部
㉖ ヒアリング 対象外施策	22 里山・自然の保全	街路樹の適正化（更新・伐採含む）の進捗状況を教えてください。	令和5年度より、あかしあ台地区をモデルに、侵略的外来種である「ニセアカシア」を伐採し「ボダイジュ系の樹木」への樹種転換等を進めています。 昨年度はL=270mにわたり樹種転換等をしており、今年度も引き続き同規模の工事に加え、フラワータウン内幹線道路において、見通し確保のため、交差点を中心に中央分離帯低木撤去を含む雑草繁茂抑制を予定しております。	都市整備部

<p>⑳ ヒアリング 対象外施策</p>	<p>24 協働・共創のまちづくり</p>	<p>共同事業提案制度を活用する団体等の動向(年齢層、新規団体かなど)を教えてください。</p>	<p><u>取組①(協働推進課)</u> 学生、子育て世代、事業者、まちづくり協議会など多様な団体から提案がありますが、比較的30~40代の現役世代が多い印象です。令和6年度補助においては新規8件、継続6件の合計14団体となっています。</p>	<p>市民生活部</p>
<p>㉑ ヒアリング 対象外施策</p>	<p>24 協働・共創のまちづくり</p>	<p>公営的事業を行う団体等への支援について、具体的に教えてください。</p>	<p>(協働推進課) 補助金を交付する以外にも、市民活動推進プラザが他団体との連携支援、活動上の困りごと相談などの伴走支援を実施し、公益的活動を初めて行うスタートアップ団体でも活動をやりきることができるよう支援しています。</p>	<p>市民生活部</p>